2024年　議会視察研修（宮城県・岩手県 10/21～10/23）レポート

2024年11月22日　　中原 あきら

1日目（10/21㈪）

①宮城県利府町（りふちょう）　複合施設「リフノス」

文化交流センター「リフノス」ができあがるまでの経過を聞き、住民の要望が高かった図書館建設に対して、議会と行政とが協力して取り組んできたことを知り、岬町での複合施設建設にも参考にしたいと思った。

「基本設計」策定にあたって、施設利用者や一般公募の住民含めたワーキンググループをつくり、8回の会議を通じて住民の声を反映させたと聞き、岬町でも必要な取り組みだと思った。

「リフノス」には、随所にさまざまな省エネ・再エネの設備が施されていて、指定管理者の運営経費節減のインセンティブにもなっていると聞き、工夫を感じた。

「リフノス」の設計事業者の募集には、自由な発想を生かしてもらえるよう、条件を定めずにおこなったと聞き、「公民館・図書館建設整備検討特別委員会」で視察させていただいた三宅町の複合施設も同様だったので、岬町でも同じようにすることが、設計業者の潜在力が引き出されるのではないかと感じた。

「リフノス図書館」施設見学で一番驚いたのは、ドーム型の「おはなしのへや」でした。扉を閉めると不思議な安心感があり、「胎児」に戻ったような感覚でした（自分の胎児の時の記憶はありませんが）。夏休みの夜の天体観測会や、「図書館に泊まろう会」など、創意ある事業に取り組まれていることにも驚かされた。

②岩手県陸前高田市　「議会 BCP」

議会からの説明員が、BCP 策定時は議員ではなかったため、実体験を聞くことができず残念だったが、東日本大震災で何もかもを失くし、議会を中学校の教室で開くなど、「当たり前」が「当たり前」でないことを知らされた。

被災経験を活かしながら議会 DX も進め、タブレットの導入や ZOOM の活用も紹介された。災害発生時は、自らの身を守ることを最優先し、「動く時はみんなで動く」、被災状況を画像で送る、グループラインの運用ルール（必要以上の情報を送らないなど）の合意形成を図ってきたことを知り、岬町議会での BCP づくりの参考にしたいと思った。

お茶と一緒に出してくださった折り鶴が印象的だった。

2日目（10/22㈫）

①岩手県大槌町　語り部ガイド

震災発生時、中学1年生だった五十嵐蘭さんの案内で、町方地区や旧町役場跡地、江岸寺と高台の避難地、赤浜地区を案内していただき、当時の状況をリアルに聞くことができた。

町方地区では、5m のかさ上げがおこなわれたことが分かるように親水広場があり、震災前

の土地の高さが分かって驚いた。
　旧町役場跡地では、発災直後から避難までの様子を聞かせていただき、緊急時の情報伝達の速度や正確性、それに基づく判断の重要性を痛感した（高台への避難の判断が遅れたことから、多くの犠牲を出した）。被災庁舎の保存について住民アンケートがおこなわれたが、意見が二分し苦労されたのだと思う。高校生が「保存」を希望したのになぜか解体されたとのことで、説明が不十分だったことを残念に思ったが、高校生も含めて住民の意見を聞く取り組みは重要だと感じた。
　江岸寺では、三日三晩の大火災のお話を聞き、高熱で破損した大きな仏像や鐘などの金属製の造作物を見せてもらい、被害のすさまじさを目の当たりにした。切り立った山の斜面を活用した墓地にある通路を登って避難時の体験をしたが、息が上がり、高齢者や障害者の避難の難しさを感じた。14．5m の防潮堤を造ったが、今ではそのことが「安心感」につながってしまい、住民が避難しなくなったと聞き、複雑な心境になった。まだ411人が行方不明で、火災で燃え尽きてしまったのかも知れないと聞き、胸が痛んだ。2ヶ月先まで火災の火種がくすぶっていたとの話もあったそうで、火災の恐ろしさをあらためて感じた。
　赤浜地区の港では、イルカやアザラシを食べる習慣があり、捕獲して荷捌き場で血抜きすることから「赤浜」と名付けられたようだと聞き、現地の昔からの習慣も知ることができた。14ｍかさ上げし、再建には10年かかったとのことだが、被災前の状況には戻っていない印象を受けた。
　最後に、災害発生時には多くを持って逃げられないので、リュック1つに入る程度の量を持ち出せるように準備しておくことを勧めてくれた。
　語り部ガイドの継続は重要なことだと思うが、財政的に困難であることも知り、行政の支援が必要だと感じた。

②岩手県釜石市　「持続可能な観光」
「株式会社かまいしDMC」が観光課と緊密に連携しながら大きな役割を果たし、インバウンドをはじめとした観光客のニーズをつかんで、詳細な分析をもとに時代にマッチした事業を展開することで、「持続可能」性を実現していることがよく分かった。
　地域に受け継がれてきた財産（ひと・文化・産業・歴史など）を生かして、地域住民も巻き込んだ事業展開には驚かされ、チャレンジングな姿勢に学ばされた。

3日目（10/23㈬）
①岩手県紫波町　公民連携事業、「オガール」
「やむなくやってきた事業」が「地方創生」のモデルになるまでの努力や工夫をお聞きできて、その精神に学びたいと思った。
　説明を聞いて、個々の事業は「偶然」的な要素があったように感じたが、全体として結果的にはまとまりのある事業になっていて感心した。
　計画段階でよく知恵を絞り、住民の要望に応えつつ身の丈に合った開発事業を計画していっ

たことがよく分かった。
　補助金に対し「百害あって一利なし」と言い切り、補助金なしで建設を進めてきたことには驚かされた。
　「民間に委ね切れる官」であったこと、民間が「パブリックマインド」を持っていたことなど、偶然の産物かも知れないが、随所に「逆転の発想」があり、一つ一つの「出会い」や「発見」の中にある「価値」を見逃さなかった先見性に感嘆した。

②岩手県紫波町　　議会改革
　「議会基本条例」制定の効果や検証などをお聞きし、岬町でも生かしていきたいと思った。

＊全体を通して
　タイトな日程だったが、非常に充実した研修だった。行き先の選定や先方との調整など、ご苦労いただいたことと思うが、満足している。ただ、質問時間が十分確保されず、より行程にゆとりがあれば、なお良かったと思う。
　合わせて、6つのテーマを3日で詰め込んで視察するよりも、1泊2日でじっくり視察する方が後に生かしやすいのではないかと感じた。
　いずれにしても、「議会三役」、議会事務局のみなさんには、感謝を申し上げたい。